

ANNUAL REPORT 2015



2015 年度事業報告書

発行日 2016 年 6 月 1 日
発行人 島田 茂

公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町 7

電話 : 03 (5367) 6640 FAX : 03 (5367) 6641
E-mail : info@ymcajapan.org
Homepage : <http://www.ymcajapan.org/>



2015年度事業報告冒頭挨拶

“ともに生きる平和”を目指して YMCAブランドの再生と革新

日本では、児童虐待、「いじめ」、子どもの貧困、そして、保育所待機児童の問題など、子育てを巡る課題が緊急度を増している。全国のYMCAでは、子育ての課題に対応するべく、保育園やアフタースクール開設などチャイルドケア事業に力を入れ、子どもたちが全人的に健やかに成長できる場を広げている。社会の課題に対応する組織風土は強められ、全国のYMCAで「いじめ」問題の解決に向けて、「ピンクシャツデー」のキャンペーンに取り組んだことは、その表れと言える。

一方、世界ではシリア・イラクでの内戦と空爆、難民問題など夥しい人々が戦争とテロの犠牲になり、虐殺や子どもの戦闘利用など現代とは思えない出来事が発生し、人々を不安に陥れ、若者から希望を奪っている。日本のYMCAは、パレスチナとアフガン難民の問題に長年取り組んでいるが、世界YMCA同盟でも難民問題への取り組みを始めており、募金と人材派遣を通して協力した。また、東北アジアでの平和を願い、12月には、第6回日中韓YMCA平和フォーラムを南京で開催し、3カ国のYMCAのユースが出会い、共に戦争の歴史を学び、対話することを通して平和を築く取り組みを行った。戦後70年にもあたり、日本YMCAがアジア・太平洋地域の人々への歴史的責任を改めて認識する機会となった。

2015年度は、中期計画2年目となり、積極的な推進を方針とし、社会の課題に応えるためのYMCAとなるために、オールジャパンYMCAのブランディングに着手した。専門会社の協力を得て、全国のYMCAが協力し、YMCAに集うボランティアや職員等1万人を超えるイメージ調査、YMCA外部の4千人の意識調査等多くの



人々にYMCAを伝えるための調査と分析を行った。一方、全国YMCAコンサルテーションで明らかになった課題に対して、日本YMCA同盟を含め各YMCAがガバナンス・コンプライアンスの改善と財政基盤の強化に取り組んだ。

スタッフ育成では、全国YMCAの幼稚園、保育園、高齢者事業等の専門職管理者研修会を昨年度に引き続き実施し、全国から多くの職員が参加し、YMCAのミッションを共有した。またステップⅡ・Ⅲは新カリキュラムも作られ、研修内容の刷新を図った。

国際青少年センター東山荘は、100周年事業の目玉である新本館建設に着手し、2年間で1億円を目標とした東山荘100年募金も70%達成することができた。この時期に奇しくも100年前の東山荘開設時の寄附集めに最も貢献した広岡浅子氏をモデルにしたNHKのドラマが脚光を浴び、御殿場市と協働でイベントを開催し、大勢の参加者で賑わった。

この1年間、お支えご協力くださった全国YMCAの会員・ボランティアの皆様、そして、ワイズメンズクラブの皆様にご心から感謝申し上げます。

日本YMCA同盟
会長

正 野 隆 士

日本YMCA同盟
総主事（代表理事）

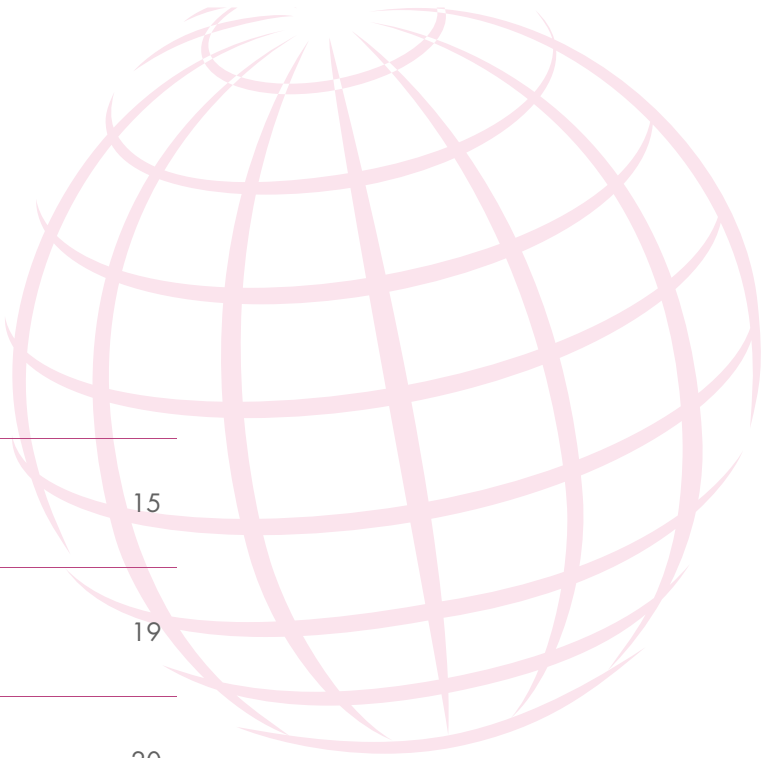
島 田 茂

日本YMCA同盟事業報告書 2015

目次 Contents		
	2015年度事業報告冒頭挨拶 “ともに生きる平和”を目指して YMCAブランドの再生と革新	1
	I オールジャパンYMCA中期計画 2年目の積極的推進	4
	II 国際協力事業の協働強化	6
	III 地域社会との協働 —パブリック・サポートの獲得	8
	IV 学生YMCAの運動支援の強化	10
	V 国際青少年センター 東山荘の新生に向けて	12
	VI 法人経営強化	14

ファンドレイジング	15
日本YMCA研究所	19
日本のYMCA現勢	20
日本YMCA同盟組織・関係団体	21
2016年度事業方針・計画	24

ANNUAL
REPORT
2015



I “オールジャパンYMCA”の革新に向けて —中期計画2年目の積極的推進—

1 YMCA全事業のリブランディングと ミッションの明確化

「もっと多くの人のよりどころに、もっと社会に希望と変革を」、YMCAにはその力と可能性がある。その確信に基づき、2年目はパートナーとなる専門会社にグラムコ株式会社を選定し、ブランディングの実行作業に入った。11月5日、全国YMCA総主事会議にてプロジェクトを正式にキックオフし、「より多くの人には選ばれる」YMCAに生まれ変わる目的を改めて確認した。

11月より大規模な内外調査を実施。この結果を受けてブランディング広報戦略タスクのメンバーが、YMCAのブランドコンセプトの立案のための集中協議を行った。



イメージ調査には全国から11,301名が協力した

2 スタッフ研修の効果的な実施と 環境整備

カリキュラムが刷新された研修システム・ステップI～Ⅲの他、各種専門職（保育・学童・高齢者事業等）のための専門職管理者研修を昨年に引き続き行った。増加する専門職スタッフをいかにYMCA運動の担い手としていくか、期待が大きい。

「新・日本YMCA研究所」については、構想について集中協議を行った。社会が必要とする働きを、課題発見から解決まで自らコーディネートできるスタッフの養成、他団体・大学・キリスト教界との協働研究、ユース育成や平和のメッセージの発信など検討された。2016年度より準備室が開設される。



専門職管理者研修の様子

3 広報の強化

広報誌である機関誌“THE YMCA”（発行部数14,000部）では、ユース世代に届くメッセージ、紙面作りを工夫した。国際協力部門やYMCA東山荘では、facebook、twitter等を通じてタイムリーな発信を行った。

また、2月24日には、全国のYMCAがピンクシャツデーの取組みを行った。いじめに遭う子どもたちに寄り添い、まず大人が子どもを守る姿勢、いじめ反対の姿勢を示す活動、自分のできることから、いじめや差別防止へ取り組む活動となった。



全国共通で用いたピンクシャツデーの啓発ポスター

4 全国YMCAの財政の 健全化・ガバナンス強化

加盟YMCAの会則を改めてすべて点検するほか、法令順守のための諸整備について支援協力を行った。2014年度にすべてのYMCAで行った「全国YMCA巡回コンサルテーション」から浮き彫りとなった課題を、2016年度末までにすべて解決、改善できるよう引き続き支援を行う。また、全国YMCAの経営指標の統一化に向けてタスクチームを設置し、財政的課題の早期発見、対策ができるよう進めていく。



ブランディングに関するワークショップを全国3カ所で開催

5 日本YMCA運動としての ガバナンス強化

第9回YMCAトップ・リーダーシップセミナーを開催し、66名の参加者を得た。「YMCAグランドデザインの創生」をテーマに、オールジャパンYMCAの革新の先にある、私たちが目指すべきYMCAの姿を考えた。日本で135年以上続く、YMCA運動のDNAともいえるべき、ミッション、会員運動、青少年・ユース育成、キリスト教基盤が今日、意味しているものは何か。集約する強さと、それぞれのユニークさ（独自性）とそのバランス、「同盟する」とは何か、若い人が担いたいと思うYMCAへの変化など大いに協議した。日本YMCA同盟中期計画を着実に遂行するための推進委員会を7回開催すると共に、各委員会での議論を活発化するための工夫を行った。



6月19日～20日 第9回YMCAトップリーダーシップセミナー

Ⅱ 国際協力事業の協働強化

1 ユースエンパワメントの推進強化

加盟YMCAからの応募により、世界YMCA同盟「チェンジ・エージェント」6名、アジア太平洋YMCA同盟「ユース・レプス」3名がユース世代の会員・スタッフから選ばれ、2年間の任期の1年目の活動を行った。それぞれに世界の青年との交流やインターネットを利用した研修、所属YMCAでのユースが主体となるプログラムなどに取り組んでいる。9月6日～11日に行われたアジア・太平洋YMCA大会では、日本から参加した16名のユースが、各国の参加者と共にアジア地域の青年を取り巻く課題についての話し合いに積極的に参加した。



8月には世界のチェンジ・エージェント150名と共に、NGOピースボートの船上で研修プログラムが行われた。

2 パートナーシップサポート事業 (PSG) の協力

アジア・太平洋地域でYMCA運動の強化が必要なモンゴル・カンボジア・インドネシア・東ティモールのYMCAに対し、国際協力募金を用いて、現地での青少年活動や貧困地域での活動等を支援した。カンボジアには横浜YMCA、東ティモールには熊本YMCAのスタッフがPSG会議に参加し、日本のYMCAの会員にとってより身近に感じられる活動の計画や推進がなされた。



横浜YMCAにより、カンボジアの貧困層を対象にしたチャイルドケアセンターがスタートした

3 海外被災地等支援 (YMCA国際協力募金による支援)

2003年からパキスタンのラホールYMCAと協働で運営する小学校では、アフガニスタン難民の子ども約80名の基礎教育と給食や健康チェックを実施している。ネパールの地震(2015年4月)被災地では児童の奨学金の設立や小学校再建の支援をした。フィリピンでは台風(2013年11月)の被災地でワークキャンプ*を行い、全国6YMCAから11名が参加し、小学校の施設の修繕作業や現地の人びととの交流をした。またシリアをはじめとする世界の難民支援のため全国に募金を呼びかけた。

*主催：名古屋YMCA・YMCAせとうち
*各募金についてはP.15を参照ください。



ネパール・ヌワコットの被災地で再建を計画している学校の生徒たち。仮設の校舎や壊れたままの校舎を使って勉強をしている。

4 地球市民育成と日中韓・東北アジアの平和づくり

これまでに地球市民認証を受けた者を対象にアドバンスコースを開催し、全国の第1～5期生15名がエントリーし、「子どもの貧困」と「歴史認識と平和構築」の2つのテーマに分かれ、活動内容を立案し取り組んだ。

日中韓YMCA平和フォーラム(南京・12月19日～23日)には日本より29名が参加し、南京大虐殺記念館の訪問、平和をテーマにした協議を通じ交流を深めた。次回までの2年間で各国での平和に向けたアクションを実施する。



地球市民育成アドバンスコース「歴史認識と平和構築」チームは、戦後70年の夏、沖縄・辺野古を訪問。メディアの報道しない現場に足を運んだ。



日中韓YMCA平和フォーラムには、日本からユース11名が参加し、各国のユースたちと平和や戦争、歴史をテーマに思いを共有し意見を交わしあった。中国ならではの円卓を囲んだ食事では終始笑顔が溢れた。

5 国際協力事業への会員の参画を促進する

YMCA国際協力募金は国際理解教育の場、平和構築への取り組みとして位置づけ、全国YMCAで多くの会員や学生、ボランティアなどの参加を促すため、新たにプレゼンテーションデータや担当者が活用できるハンドブックを作成し、募金リーフレットやポスター、パネルと共に配布した。全国で行われた海外派遣のプログラムの広報としてはホームページへの掲載やFacebook等によって発信した。



YMCA国際協力募金は、物資やお金と共に思いも届ける。そのために知ること、考えることを大切にしている。

III 地域社会との協働 ―パブリック・サポートの獲得―

1 加盟YMCAが取り組んでいる ファンドレイジング支援

リソースモビリゼーション・ワークショップを、初年次研修、2年次研修、3年次研修と10月6日～9日、54名の参加者を得て実施した。3カ年計画の最終年度は、土地取得や新館建築時の大型寄附金獲得活動について北米YMCAの講師から学んだ。

「YMCAユースファンド」を通して、全国YMCAのパブリック・サポート獲得を支援した。指定YMCA寄附として7YMCAに10件、指定プログラム（課題を抱えるユース支援）寄附として12件のファンドを得た。

また、FCSCファンドレイザーとしての機能・活動を強化し、障がい児プログラム実施のために企業・団体からのファンド・物品支援の継続・拡大を図った。

9月には同盟ウェブサイトからの寄附が可能となり、更なるファンド獲得のため、その周知に努めた。



寄附ウェブサイトトップ
<https://srv.asp-bridge.net/ymca/index/>

2 ワイズメンズクラブとの協働支援

全国に143あるワイズメンズクラブおよび、その東日本区・西日本区、全国レベルで、様々なYMCAプログラムを通した子どもやユースの育成、コミュニティ活動における協働が行われている。特にユースエンパワメントに力を入れ、YMCAユースとワイズメンズクラブメンバーの交流の機会も増えている。また、日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘の新本館の建築にも多額の支援をいただいた。

3 関係団体との協働支援

日本キリスト教協議会（NCC）、中央青少年団体連絡協議会、日本NPOセンター、協力隊を育てる会など関係団体と連携し、全国規模のネットワークによる、青少年の育成及び課題解決に向けて協働支援を行った。特に、NCCは加盟YMCAからの役員や委員派遣等の協力を得て、「平和」「人権」「諸宗教との対話協力」などの活動を共に推進。日本NPOセンターとは、震災被災者支援に従事する支援者の心のリフレッシュプログラムに取り組んだ。

4 東日本大震災被災支援事業

全国の加盟YMCAが被災地にあるYMCAと協力して、岩手県宮古市、宮城県仙台市とその周辺地域、石巻市で行う活動を2011年度より5年間継続をしてきた。2015年度は、とくに子どもや青年、高齢者への支援に重点を置き、2016年度以降も活動を継続するための仕組み作りを行った。また、福島県に暮らす家族や養護施設の子ども達を対象にした保養プログラムなども、外部からの資金援助を受けながら実施を継続してきた。さらに復興支援に関わる団体のスタッフを対象にした心のリフレッシュプログラムを東山荘で実施し、支援の継続に役割を果たしている。



石巻では東京YMCAの専門学校生による夏休みのプール指導を継続している。



東山荘で実施した、支援スタッフ対象の心のリフレッシュプログラム

IV 学生YMCA運動支援の強化

1 個別の大学YMCAの運動支援と強化

全国34大学で約480名の学生たちが、所属大学に留まらず地域・全国で横断的に活動した。第43回全国学生YMCA夏期ゼミナール（9月11日～14日）には、22大学3都市YMCAから過去最大となる113名が集まった。仁藤夢乃氏（女子高校生サポートセンター Colabo代表）を講師に、個人の問題に矮小化されがちな貧困やジェンダーの問題を学び、金井創氏（日本基督教団佐敷教会牧師）の聖書研究では「平和を創ること」が問われ、私たちがいかに生きるべきかを語り合った。

全国プログラムへの参加をきっかけに、他大学YMCAの状況や取り組みに刺激を受け、所属大学YMCAの課題解決に積極的に関わる学生が増え、活動基盤の強化につながっている。



全国各地から集まった学生・シニアたち

2 共働スタッフ養成と幅広い世代のリーダーシップの構築

近年学生の自由な発想から独自のプログラムが生まれている。学生の関心を捉え、大学・地区での協働をサポートするため、地区共働スタッフを増員した。学生と地域のシニア（卒業生）や支援者を繋ぐとともに自ら成長するリーダーシップとして、地区・全国プログラムの陰の立役者でもある。世界YMCAチェンジエージェントやアジアYMCA大会、日中韓平和フォーラムに、20代シニアや学生の派遣を推奨した。大学院生や社会人らユース世代が、YMCAで育てられた一人として、よりよい社会や平和を創り出す営みに参画することが期待される。



インドスタディキャンプにて、現地のユースとの交流

3 地域の都市YMCA・教会とのネットワーク促進

青少年育成や地域の課題解決に働く都市YMCAとの出会いは、大学を拠点に活動する学生にとってYMCA運動の幅広さに触れるよい機会となる。今年は特に、第21回インドスタディキャンプ（3月2日～19日・南インド）に、ボランティアリーダーや教会青年の参加があり、共に現地のYMCAやNGO訪問から、アジア・世界の課題を肌で感じる学びとなった。

また、都市YMCAとの協働の下、東北被災地支援ボランティア活動を企画した。3グループ26名が、現場に身を置き、地域の人々に寄り添う働きを体験した。



東北被災地の子どもたちと凧作り。復興ののろしをあげよう

4 学生YMCAが築いてきた思想と出会いを通してイエスに従う生き方を伝える

学生YMCAでは、いつの時代も社会の不正義に声を上げ、若者の鋭い問題意識とみずみずしい感受性を育み続けてきた。今年、戦争が出来る国へと突き進もうとする社会情勢に抗し、年代・教派も多様な学生YMCA出身の牧師・伝道師らによる、平和説教集を緊急発刊した。3.11以降の社会をいかに生きるかを問い、平和といのちを犠牲にしない公正な社会の実現のために、全国の聖書研究会/聖書を読む会での活用も広がっている。



「学生YMCAブックレット いま、聖書から聴く 22の平和説教集」は、1,500冊以上を販売した

V 国際青少年センターYMCA東山荘の新生に向けて

1 東山荘経営強化——利用者拡大により稼働率を上げる。

2012年度以降、利用者数は2013年度に減少、2014年度に回復し、2015年度は2012年度比で952名の増の34,967名となった。2015年度の年間目標の35,000名にあと一息だったが、新本館建築関連工事の影響と考えられる。増加の要因は、自然体験のニーズに応える学校等の利用、旅行エージェントとの契約やインバウンド需要に応じた外国人観光客の受け入れ等である。今後も、利用者拡大と稼働率向上のために、首都圏でのプロモーションを強化したい。

なお東山荘は、福島原発事故の影響下にある子どもの保養キャンプや震災支援従事者の心のリフレッシュプログラムを、他団体との協働により、継続していることを合わせてご報告したい。



こどもキャンプ

2 100周年記念事業の推進

第2次募金キャンペーンの目標額1億円に対して、2015年度末で71,043,695円の募金を頂戴することが出来た。100周年記念事業に関するニュースレターの発行や各種チャリティプログラムの企画を通して、様々な方々にご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

11月の東山荘主催100周年記念行事（参加者約80名）では、記念感謝礼拝・スプリングフィールド大学*学長のメッセージ・記念シンポジウムを通して、東山荘の歴史や働きの検証と共に未来に向けてその使命を確認することができた。2016年度は、目標額達成に向けて約3,000万円の募金を得るべく、さらに募金キャンペーンに注力していきたい。

*YMCAの指導者育成のために設立された大学（1885年：米国マサチューセッツ州）



3 東山路観光協会との協働による地域活性化

東山荘は、東山路観光協会の事務局を引き受けると共に、御殿場市東山二の岡まちづくり懇話会の副座長を担っている。市との共催による男女共同参画講演会「広岡浅子が残したかったもの」には約300名の来場者があった。また東山荘主催の「御殿場の広岡浅子展」へは各界から後援が得られたことは、今後の地域活性化のコーディネーターとしての東山荘への期待と受け止めて、役割を果たしていきたい。

なお、2019年には東山荘が「全国椿サミット」のメイン会場の候補となっている。東山地区のコミュニティー活動の場としての東山荘の働きが拡大した年度であった。



広岡浅子展

御殿場の広岡浅子展

～御殿場夏季勉強会に集った青年たちと東山荘～

期間：2016年2月14日（日）～3月6日（日）
（10：00～16：00）

会場：YMCA東山荘 本館展示場 入場無料
（東山ヴォーリズ設計フィッシャー館の見学が可能です）

特別対談講演会（男女共同参画講演会）
「広岡浅子が残したかったもの」
鹿野幸枝氏 × 内海重忠氏
（大館YMCA代表理事） （二宮神社代表・民間参事）
3月3日（木）19:00～20:30
会場：YMCA東山荘本館2階 講堂
主催：御殿場市 入場無料

YMCA東山荘は2015年に創立100周年を迎えました。広岡浅子氏には、この開設時に多大なご協力とご寄付を頂きました。1915年夏の献堂式において、全国より集まった学生YMCAの青年たちに向けて、男女平等な公正で平和な世界を創るようお言葉をいただきました。広岡浅子氏が御殿場で出会った、青年たちへの熱き想いに触れてください。

主催：公益財団法人日本YMCA総連 東山荘・御殿場
後援：御殿場市、御殿場市の絆・東山荘、御殿場市観光協会、東山町観光協会、二宮神社、御殿場市立山文化芸術学舎
協力：大館生命保険株式会社、日本女子大学、東洋英和女学院、公益財団法人近江兄弟ヴォーリズ記念館
連絡先事務局：公益財団法人日本YMCA総連 東山荘 〒413-0004御殿場市東山2002 TEL:0550-43-1131

YMCA東山荘は2015年 創立100年を迎えました

VI 法人経営強化

1 主事退職金中央基金・職員年金基金の運用支援

退職金制度を維持し、退職職員への年金の安定支給と共に現職員が安心して働けるように1.5%の運用益確保を基準に、資金運用委員会を毎月開催し、検討と対応を行った。
また主事退職金中央基金・職員年金基金運営委員会のもとに制度検討委員会を発足させ、2016年度以降3年間の退職金及び年金制度に関する答申を行った。

2 同盟法人運営の整備

全国YMCA巡回コンサルテーション（2014年度）の結果を踏まえて、事務・機関設計コンサルテーションタスクを設置し、法人運営に関する参考情報（例：会議議事録モデル等）を提供し、個別の課題については適宜、専門家による助言を行った。
また総務担当者の協力を得て、モデル就業規則の作成、税と社会保障・税番号（マイナンバー）制度への対応等、各YMCAの総務・労務上の実務課題へ取り組んだ。

3 加盟YMCAから提出された定款・会則（規則・内規）の整合性の確認と指導

公益法人移行後のYMCAを含め、各YMCAの定款・会則等の整備状況のモニタリング調査を行い、課題に応じて、専門家の協力を得ながら個別に助言等を行った。
また加盟YMCAから提出された会則・諸規程について、同盟加盟・退除ガイドラン及びモデル会則に基づき点検し、課題に応じて個別にフォローアップを行った。

4 リスク管理の整備

同盟に寄せられる加盟YMCAの組織管理上の情報に対してその都度、対応を行った。

5 中期計画実行のための体制作り

中期計画・ブランディングの推進を念頭に、全国YMCA総主事会議と総務担当者会との連携の場づくりや総務担当者会とICT担当者会の協働による経営分析のための「経営指標タスク」への取り組みを開始した。



ファンドレイジング

YMCA国際協力募金

「子どもが、未来を創る。一かけがえのないいのちと平和―」をテーマに、国際理解教育の機会としても位置づけ募金活動を実施した。

2014年度に全国より寄せられた募金を難民支援、ユース育成、アジア地域の貧困や青少年課題への取り組み、啓発事業等に用いた。



YMCA国際協力募金ポスター

国際協力募金収支報告

【収入】

1. 2014年度国際協力募金	6,515,503円
2. アフガニスタン難民支援募金より繰入	600,000円
3. ツール負担金	116,695円
4. 過年度繰越累計より繰入	14,996円
収入合計	7,247,194円

【支出】

1. 国内外のユース育成（海外・研修・会議他派遣）	717,909円
2. 難民・在日外国人への支援（アフガニスタン難民・パレスチナ難民）	2,369,388円
3. アジア地域のYMCAを通じた支援（青少年育成、貧困地域の支援他）	2,429,567円
4. 啓発・広報事業（リーフレット・DVD作成他）	1,721,466円
5. 事務費（送金手数料等）	8,864円
支出合計	7,247,194円

海外被災地等支援指定募金

2015年4月に起きたネパール地震の被災地支援は現地のインフラの復旧が立ち遅れ、一時はインドからの燃料や資材の輸入が出来なくなった。そのような中、被災児童の奨学金や学校の再建等の支援を行っている。今後ワークキャンプの実施を検討中。2013年のフィリピンの台風被災地支援は3年目を迎え、2月に現地でのワークキャンプを実施した。オリーブの植樹によりパレスチナを支援するキャンペーンは、ちらしを刷新し、協力を呼びかけた。世界難民支援は主にヨーロッパ圏に避難した難民たちの暮らしを支援する活動を現地のYMCAが行っている。



オリーブでパレスチナを支援する活動の案内チラシを刷新した

海外被災地等支援指定募金収支報告

【収入】

1. 2014年度繰越	2,243,768円
2. ネパール地震被災地支援募金	19,569,597円
3. 世界難民支援募金	480,053円
4. パレスチナ難民支援・オリーブキャンペーン	292,000円
収入合計	22,585,418円

【支出】

1. フィリピン台風被災地支援	561,058円
2. ネパール地震被災地支援募金	5,512,091円
3. パレスチナ・ガザ支援募金	39,261円
4. パレスチナ難民支援・オリーブキャンペーン（現地送金）	319,023円
5. 国際協力資金へ繰り入れ	735,242円
支出合計	7,166,675円
* 次期繰越	15,418,743円

*内訳は以下の通り

フィリピン台風被災地支援 614,184円
ネパール地震被災地支援 14,057,506円
世界難民支援 480,053円
パレスチナ難民支援・オリーブの木キャンペーン 267,000円

東日本大震災被災支援事業

東日本大震災発生以降、継続して行ってきた全国協働による被災者支援活動は最終年となったが、国内外のYMCA・ワイズメンズクラブの協力のもと、2015年度は全国で総額11,850,782円（①YMCA青少年救援・復興募金:11,764,270円、②被災YMCA支援募金:86,512円）が寄せられた。①募金は被災地の3支援センター（宮古・仙台・石巻）で継続して行われている被災地復興支援活動を支えるために、②募金は被災した仙台YMCAの運営する公益事業を支えるために用いられた。

また、2013年に北カルフォルニア日本文化コミュニティセンター（JCCCNC）から、中長期にわたるプログラム指定募金299,000USドルが寄せられており、2015年度も全国の被災者・避難者の親子リフレッシュキャンプ、被災地復興支援に関わる団体のスタッフの心のリフレッシュプログラム実施のために継続して用いられた。



宮古でのプール指導を子ども達も楽しみにしています

①YMCA青少年救援・復興募金収支報告

【収入】	
2014年度繰越	4,541,126円
2015年度募金収入	9,719,350円
2015年度利息収入	607円
収入合計	14,261,083円

【支出】	
盛岡YMCA宮古ボランティアセンター支援	4,000,000円
仙台YMCA東日本大震災支援対策室支援	3,000,000円
YMCA石巻支援センター支援	3,000,000円
復興支援活動評価会運営費	95,539円
第8回募金管理委員会運営費	27,820円
郵送費	1,000円
指定寄附送金	1,535,000円
(1) 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター支援	1,010,000円
(2) 福島支援：映画「飯舘村の母ちゃんたち」制作支援の会	500,000円
(3) 学生Y M C A東北支援ワークキャンプ支援	25,000円
支出合計	11,659,359円

②被災YMCA支援募金収支報告

【収入】	
2014年度繰越	66,400円
2015年度募金収入	50,000円
2015年度利息収入	21円
収入合計	116,421円

【支出】	
仙台YMCA支援	76,421円
支出合計	76,421円

③プログラム指定募金（JCCCNCからの支援）

【収入】	
2014年度繰越	15,933,743円
震災支援者の心のリフレッシュプログラム 分担金	3,798,000円
2015年度利息収入	1,554円
収入合計	19,733,297円

【支出】	
親子リフレッシュキャンプ支援	6,951,093円
震災支援者の心のリフレッシュプログラム	2,292,032円
支出合計	9,243,125円

国際賛助会 (FCSC)

本年度も全国のYMCAがCCP（Challenged Children Program）を実施できるようファンドを獲得するための活動を行ない、全国18YMCAにて開催されたインターナショナル・チャリティーランの活動をサポートすると共に、これらをサポートしていただいている各企業との円滑なコミュニケーションを保つことに注力した。今後はさらなる開催地の拡大に力を注いでいきたい。チャリティーイベント等の開催を通じての寄附金獲得に加えて、各YMCAのCCPには在日の外国企業あるいは在日米国商工会議所等からも多大な財政的な援助・寄附を受けた。こうした関係先団体に対する報告・働きかけを充実させ、引き続きサポートを継続してもらえるよう努力した。財政的支援のほかには物質的援助・寄附をいただいた企業もあり、それらの企業に対しても継続的なサポートをしていただけるよう報告・働きかけを行った。

各企業が経費削減を進める中、支援の継続／拡大のために今後も引き続き各企業・団体との強固な関係構築を進めていきたい。

【収入】	
寄附収入	30,500,423円
(1) コーポレートスポンサー	27,735,623円
(2) 個人	563,800円
(3) チャリティーイベント	2,201,000円
インターナショナル・チャリティーラン2015	8,992,248円
その他	32,336円
前年度より繰越	11,832,584円
収入合計	51,357,591円

【支出】	
全国YMCA障がい児プログラムへ	25,947,460円
(1) 全国のCCP支援	11,791,356円
(2) 特定プログラムへの支援	14,156,104円
18YMCAへ インターナショナル・チャリティーラン協賛金	7,573,235円
インターナショナル・チャリティーラン経費 リーフレット／担当者会など	1,209,365円
チャリティーイベント 経費	658,262円
その他 経費	472,432円
日本YMCA同盟へ事務手数料として	1,591,259円
支出合計	37,452,013円
来年度への繰越	13,905,578円

ユースファンド

2015年度ユースファンドは、「YMCA地球市民育成プロジェクト アドバンスコース」への支援、及び指定寄附を通して「ユースボランティア・リーダー育成」「困難にあるユースの育成」等への支援を行った。

「アドバンスコース」では、第1期生～第5期の約300名の認証生から15名が参加し、「歴史認識と平和構築」「子どもの貧困」のテーマ別に2つの班に分かれて活動を行った。地球市民の「世話人」として支援を継続されている59名、1団体をはじめとする寄附者の方々には、ニュースレター第15号（6月30日発行）、及び第16号（12月15日発行）を通して、「アドバンスコース」実施の告知と報告を行い、継続的な寄附に加えて新たな寄附も得ることができた。

また、全国の各YMCAにて実施されているユース育成プログラムにも高い関心が寄せられており、2015年度は7YMCA（埼玉、横浜、三重、姫路、松山、鹿児島、沖縄）に対して指定寄附が寄せられた。

【収入】	
2014年度繰越	8,807,716円
2014年度募金収入	4,491,186円
(1) YMCA地球市民育成プロジェクト 指定寄附	2,491,086円
(2) YMCA指定寄附	646,000円
(3) プログラム指定寄附	1,200,000円
(4) 一般寄附	154,100円
2015年度利息収入	1,864円
収入合計	13,300,766円

【支出】	
YMCA地球市民育成プロジェクト支援	1,168,707円
ユース育成支援（YMCA指定）	623,700円
ユース育成支援（プログラム指定）	2,041,400円
運営費	485,472円
支出合計	4,319,279円

日本宝くじ協会

全国YMCAの地域奉仕活動や各種イベント開催を通じた青少年プログラムの円滑実施、地域サービス充実のための集会用テント、及び青少年を対象とした野外教育プログラムのための宿泊用テントに対して一般財団法人日本宝くじ協会から総額9,000,000円の助成を受けた。集会用テントは全国10YMCA20拠点に42張、宿泊用テントは全国14YMCA21拠点に81張、計123張が新たに配置された。各YMCAの地域センター、キャンプ場、保育園や幼稚園から、テントを活用したプログラムを通しての地域社会との連携の強まり、交流の活性化等が報告されている。

【収入】	
助成金収入（本体事業費）	9,000,000円
助成金収入（消費税分）	720,000円
自己財源収入	11,498円
収入合計	9,731,498円

【支出】	
集会用テント 42張	4,719,500円
宿泊用テント 81張	4,291,146円
消費税	720,852円
支出合計	9,731,498円



日本宝くじ協会からの助成により、集会テント・宿泊テントを全国YMCAの公益事業に用いた

ワイズメンズクラブ国際協会(東日本区・西日本区)

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区・西日本区より、日本YMCA同盟主催または全国規模で実施されているユース育成を目的としたプログラムに、総額200万円のご支援をいただいた。また、2015年度には東山荘100年募金、東日本大震災、常総市水害、ネパール地震、台南地震など自然災害での支援募金、東日本地区YMCAのチャイルドケア事業への絵本寄贈、YMCAインターナショナル・チャリティラン、その他に加盟YMCAによる多くのプログラムにもご支援いただいた。

【収入】		
ワイズメンズクラブ国際協会	東日本区	1,000,000円
ワイズメンズクラブ国際協会	西日本区	1,000,000円
収入合計		2,000,000円

【支出】	
2015年度全国YMCA国際研修会	250,000円
第21回インドスタディキャンプ	250,000円
YMCA地球市民育成プロジェクト	600,000円
第46回全国YMCAリーダー研修会	400,000円
第43回学生YMCA全国夏期ゼミナール	250,000円
中日本地区YMCAグローバル教育研修会	250,000円
収入合計	2,000,000円

研修

ステップⅡスタッフ研修 期 間：2015年9月15日（火）～11月28日（土）75日間
場 所：日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘／在日本韓国YMCA
参加者：10YMCAより14名

ステップⅢスタッフ研修 期 間：2016年1月19日（火）～22日（金）3泊4日
場 所：日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘
参加者：3YMCAより6名

専門職管理者研修 期 間：2015年7月27日（月）～31日（金）4泊5日
場 所：日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘
参加者：8YMCAより26名

海外スタッフ研修

1.アジアスタディーツアー
期 間：2015年10月6日（火）～13日（火）
場 所：ミャンマー（ヤンゴン、パテイン、チャウンター、モウビン）
参加者：4YMCAより4名

2.アジア・太平洋YMCA同盟主催第33回アドバンスコース
日 程：2015年11月2日（月）～27日（金）
場 所：香港（香港中華YMCA Wu Kai Sha Youth Village）
参加者：1YMCAより1名

資格

主事資格認定 2015年6月1日付けで3YMCAより5名を、YMCA主事にふさわしい者として認定した。

日本のYMCA現勢

2015年6月1日

組織	
世界の国・地域YMCA	119
日本加盟・準加盟都市YMCA	36（同盟含む）
上記YMCAが運営している法人・団体（カッコ内は登記にもとづく）	
・財団法人	27（公益財団法人：20、一般財団法人：7）
・学校法人	14
・社会福祉法人	10
・NPO法人	8
・任意団体	3
学生YMCA	37（公益財団：2、一般財団：2）

メンバー	
プログラム会員数（野外活動、教育事業の年間登録会員）	137,922名
賛助会員（個人）（YMCAの目的に賛同し、会費を支払い支えて下さった方）	8,920名
賛助会員（法人）	627法人

ボランティア・職員	
職員・教員（常勤）	2,689名
職員・教員（非常勤）	4,085名
ポリシーボランティア（方針決定に関わるボランティア）	1,476名
ユースボランティア（野外活動、青少年活動、障がい児、国際などのプログラムで子どもたちを指導するボランティア）	8,369名

施設	
YMCA地域活動センター等	211
予備校	2
学習クラス	12
日本語学校・教室	22
語学学校・外国語教室	51
専門学校	
福祉系学科	10
医療系学科	4
社会体育系学科	6
語学・ビジネス系学科	6
ホテル・観光系学科	7
その他の学科	7
チャイルドケア	
幼稚園	15
認可保育園	39
チャイルドケア	51
アフタースクール	46
オルタナティブ教育	
フリースペース・スクール	5
単位制高校・技能連携校	9
インターナショナルスクール等	9

高齢者ケア	
高老人ホーム・グループホーム	9
デイサービスセンター	14
在宅介護支援センター（相談業務）	9
在宅介護・看護センター	4
介護予防プログラム	30
発達支援	
軽度発達障がい児対応（LD児他）	59
障がい児プログラム（野外・プール・アート）	44
ウエルネスセンター	64
キャンプ・野外活動	109
キャンプ場・キャンプ施設	26
研修センター	12
ホテル・貸会議室・ユースホステル	20
国際活動	64
賛助会	18
地域活動・ボランティアセンター	130
生涯学習・文化教室・聖書研究	92
その他	18

（同盟含む）

日本YMCA 同盟組織・関係団体

2015年度諸委員名簿

◎は長を示します

1 理事ならびに監事、評議員、常議員

理事（7名）
笈川光郎、長尾ひろみ、中道基夫、神崎清一、
島田 茂（代表理事）、堀口廣司（執行理事）、
横山由利亜（執行理事）

監事（2名）
武田寿子、進 宏一

評議員（12名）
◎正野隆士、黄 崇子、橋爪良和、大森佐和、
桑田隆明、廣瀬頼子、渡辺喜代美、岩坂二規、
田中俊夫、竹佐古真希、田口 努、小川健一郎

常議員（22名）
◎正野隆士、黄 崇子、末岡祥弘、笈川光郎、
長尾ひろみ、中道基夫、橋爪良和、大森佐和、
桑田隆明、廣瀬頼子、渡辺喜代美、岩坂二規、
田中俊夫、竹佐古真希、岡戸良子、久保田貞視、
浅羽俊一郎、有住 航、神崎清一、田口 努、
小川健一郎、廣田光司

2 運営委員会

A. 東山荘運営委員会（5名）
◎桑田隆明、池谷洋子、野田 徹、渡辺 巖、
井口 延
B. 主事退職金中央基金・職員年金基金運営委員会（7名）
◎久保田貞視、勝田正佳、徳久俊彦、諏訪治男、
末岡祥弘、堀尾 仁、島田 茂

3 常置委員会

A. 学生部委員会（4名）
◎竹佐古真希、黄 崇子、板野靖雄、村瀬義史
B. 国内協力委員会（5名）
◎橋爪良和、笈川光郎、末岡祥弘、田口 努、
岡 成也
C. 国際協力委員会（5名）
◎長尾ひろみ、浅羽俊一郎、廣瀬頼子、荒井浩元、
井上真二
D. 加盟退除・組織検討委員会（5名）
◎桑田隆明、大森佐和、笈川光郎、末岡祥弘、
廣田光司

E. 研究所委員会（5名）
◎廣田光司、棟方信彦、西原良信、佐竹 博、
山佐亜津子

4 特別委員会

A. 主事退職金中央基金・職員年金基金資金運用委員（5名）
◎久保田貞視、勝田正佳、徳久俊彦、藪田安晴、
齋藤金義
B. 東山荘創立100周年記念募金委員会（5名）
◎正野隆士、田中博之、高谷泰市、石田 恩、
井口 延
C. 主事資格認定委員会（6名）
◎金 秀男、榎原道子、向谷 章、太田直宏
井之井秀雄、島田 茂
D. 主事論文審査委員（9名）
田中治彦、松岡信之、原田宗彦、青山鉄兵、上篠直美、
松田誠一、中村 隆、久保誠治、沖 利柯
E. 東日本大震災YMCA募金管理委員会（11名）
◎勝田正佳、野村秋博、中川善博、廣田光司、
神崎清一、水野雄二、藤井寛敏、宗雪雅幸、
北城恪太郎、西田浩子、島田 茂

F. 東山荘新生委員会（4名）
◎正野隆士、桑田隆明、笈川光郎、松田誠一
G. 中期計画推進委員会（6名）
◎正野隆士、中道基夫、黄崇子、神崎清一、
末岡祥弘、島田 茂

5 定例委員会

A. ユース委員会（4名）
濱塚有史、黒澤伸一郎、廣瀬頼子、永岡美咲
B. ジェンダー委員会（2名）
武田寿子、鍛治田千文
C. ミッション委員会（2名）
中道基夫、澤村雅史

国際賛助会 (FCSC) メンバー 2015

名誉役員： オーストラリア大使 H.E. Mr. Bruce Miller
- Ambassador of Australia
カナダ大使 H.E. Mr. Mackenzie Clugston
-Ambassador of Canada

会 長： Mr. Nick Masee
副 会 長： Mr. Roland C.F. Thompson
会 員： Mr. Marco Andrea Crivelli、 Mr. Mark Cutler、
Mr. Lance E. Lee、 Mr. Brian Nelson、
Mr. Toshiaki Yokozawa、 Mr. Pierre Thomelin、
Ms. Barbara Allen、 Mr. Thierry Cohen、
Ms. Midori Kaneko、 Mr. Greg Irwin、
Ms. Emiko Tokunaga、 Mr. Nobuo Seki

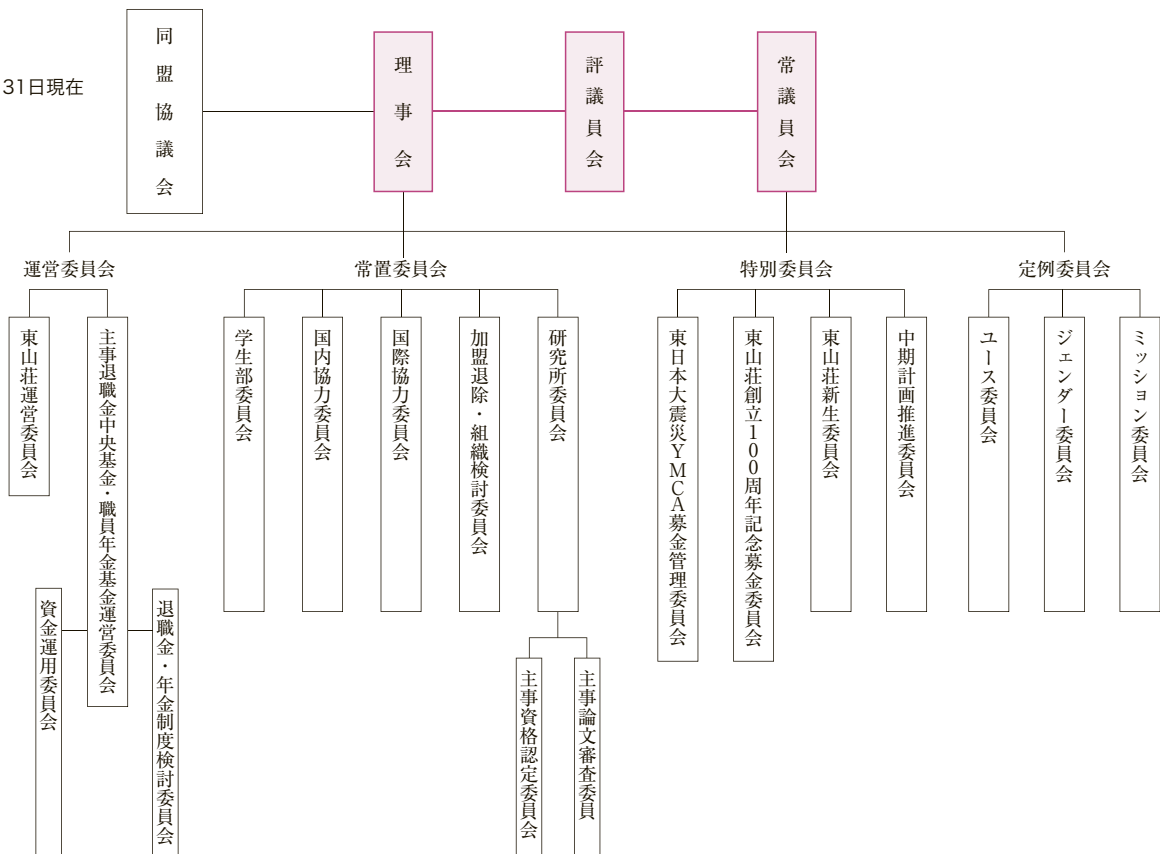
関係・友好諸団体

- ・アジア・太平洋YMCA同盟
- ・世界YMCA同盟
- ・世界学生キリスト教連盟
- ・公益財団法人 日本YWCA
- ・日本キリスト教協議会
- ・公益財団法人 日本レクリエーション協会
- ・公益財団法人 日本キャンプ協会
- ・一般財団法人 協力隊を育てる会
- ・認定NPO法人 開発教育協会
- ・ECPAT/ストップ子ども買春の会

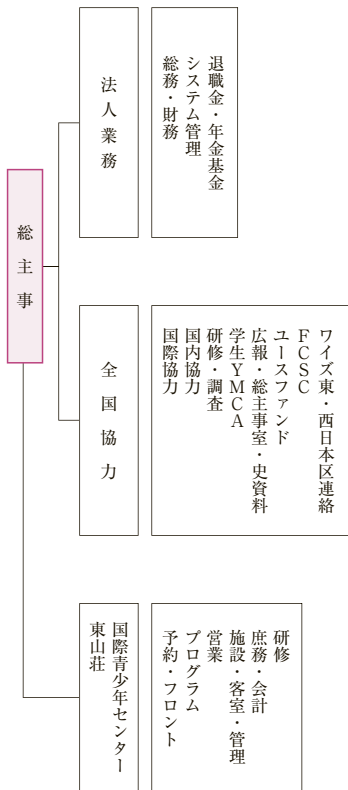
2015年度組織・業務組織・職員体制

組織

2016年3月31日現在



業務組織



職員体制

2015年7月1日現在

部 門		氏 名		
		主 務 者	職 員	嘱託・パート
全 般		総主事 島田 茂		
全国協力	国内協力	主任主事 横山由利亜 主任主事補佐 田尻忠邦	山田紀久美	山崎久美子
	国際協力	主任主事 山根一毅		佐々木美都 市来小百合
	学生YMCA	主任主事 横山由利亜		森 小百合 佐々木美都
	広報・総主事室	主任主事 山根一毅 主任主事補佐 真鍋 泉		
	研究所	所長 大和田浩二	横山明子 滝口敦子	杉野歌子
	FCSC			関 伸夫 小野寺みさき 室伏徹郎
法人業務	全般	事務局長 大江 浩		
	総務		濱口妙子	
	財務全般		波多尚子	
	退職金・年金・互助会事務局		波多尚子	
	人事・労務		濱口妙子	
	システム管理		山田紀久美	
ユースファンド		主任主事補佐 真鍋 泉		
国際青少年センター 東山荘	全般	所長 堀口廣司		
	フロント		横山明子 盛岡美貴 横山 幹	
	ナイトフロント		滝口敦子 遠藤 舞	
	予約		藤澤幸伸 宮澤晃司	
	営業企画		鈴木貴子 勝俣多賀子	
	プログラム	主任主事補佐 佐久間真人	沼田光隆	
	メンテナンス		白鳥裕之 堤雄一郎	吉澤良尚
	客室		山田 仁	藤田英一 内海信吾
	庶務・労務		勝又由佳里 他パート7名	
	会計・募金管理		眞田真由美	
	広報・震災関連		野木千賀世	
				杉野歌子

2016年度日本YMCA同盟 方針・計画

基本聖句 「あなた方の光を人々の前に輝かしなさい。」

ーマタイによる福音書5章16節

基本方針

2016年度は、日本YMCA同盟中期計画最終年となる。中期計画は、YMCAブランドの再生によってオールジャパンYMCAを革新することを目指している。この2年、全国YMCAコンサルティングチームで加盟YMCA全てを訪問することを通し、組織としての基盤の強化に取り組んできた。第18回日本YMCA大会ではYMCAの宝を再確認し、YMCAの目指す方向を共有した。昨年度は、ミッションの明確化に着手するとともに、外部のブランディング会社と契約し、ブランディングに着手した。今年は、各地域でそれぞれに輝いているYMCAの宝が、「升

の下におかれたともしび」のようにあるのではなく、「燭台の上に置く」ように、全ての人を照らすことができるように、「一つの言葉」でYMCAのブランドを輝かしたい。貧困、不登校、ひきこもり、いじめなどの問題に表出しているように、多くの子どもたち、青年たちが、学校、家庭、地域の中に埋もれ、声を上げられない苦しみの中にいる。YMCAの放つ光が、弱くされた人々にメッセージを届けることができるように、心をつ一つにして、オールジャパンYMCA革新後の姿を目指して中期計画を推進したい。

「見よ、新しいことをわたしは行う。

今や、それは芽生えている。

あなたたちはそれを悟らないのか。

わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。」

ーイザヤ書43章19節

重点課題（全国 YMCA での展開）

中期計画最終年として、全国YMCAが一致・協力して推進するために、各YMCAの2016年度方針・計画に特に以下6つの重点課題を組み入れていただきたい。

1 ブランディングのための具体的な展開準備

YMCAミッションを実現するために、ブランディング専門会社による調査、コンセプトの集約、ブランドガイドラインを制作する。それを受けて、各YMCAとして全てのプログラムに、具体的な展開に備えて準備する。

2 ガバナンスの整備に基づいた各YMCA加盟の再確認

2014年度コンサルティングで課題となったガバナンス・コンプライアンス上の事項を解決し、YMCA運動

としての財政基盤・ガバナンス・コンプライアンスを強化し、改めて日本YMCA同盟加盟の再確認を行う。

3 加盟YMCAグランドデザイン立案とオールジャパンYMCA次期中期計画策定

各YMCAの中・長期計画に基づいたグランドデザインを策定し、オールジャパンYMCA次期中期計画(2017年度～2020年度)策定に参画する。

4 全国YMCA事業強化目標の確実な達成

中期計画で目標となった事業（アフタースクール事業と日本語教育事業の拡大）を各YMCAとして積極的に取り組む。また、子どもの貧困について取り組む等、地域社会の青少年の全人教育の機会を更に拡げる。

5 ユースを主体とする第19回日本YMCA大会の実施

ユースを主体として第19回日本YMCA大会の企画・運営に協力し、東山荘新本館に於いてオールジャパンYMCAとしてのブランディング・コンセプトを共有化し、今後の展開の方向性を確認する。

6 日本YMCA基本原則に基づいた平和・人権構築の取り組みとアドボカシーの発信

国家間の緊張・難民・ヘイトスピーチ等国内外における平和・人権の問題に関して、日本YMCA基本原則に基づいて責任ある取り組みと声明・政策等の発信を行うと共に地球市民の育成に努める。

事業計画

I 「オールジャパンYMCA中期計画」最終年の確実な遂行

1 YMCA全事業のリブランディングとミッションの明確化

- 1) 専門会社とのYMCAブランディング実行作業とその過程の可視化
- 2) 全活動のミッションの再確認
- 3) 寄附・募金の積極的な推進
 - ①各YMCAリソースモビライゼーションの成果掌握とサポート
 - ②加盟Yの公益活動を支援（子どもの貧困支援協働プロジェクトなど）
 - ③国際協力募金、ユースファンド、東山荘100年募金をオールジャパンYMCAとして

2 スタッフ研修の効果的な実施と環境整備

- 1) 「新日本YMCA研究所」のコンセプトの構築と設立準備室立ち上げ
- 2) 研修の環境整備と仕組みづくり
- 3) 全国YMCAの強化の観点から、人事協力・交流
- 4) グローバルな視野での研修機会の拡大

3 広報の強化

- 1) ブランディング推進に合わせたビジュアル化推進、広報の研究
- 2) アドボカシー（社会に対する意見表明機能）のプロセスの整理と共有
- 3) 通常広報の強化（THE YMCA・Y Info）

4 全国YMCAの財政の健全化・ガバナンス強化

- 1) 加盟YMCAグランドデザイン立案と個別コンサルテーション機能の強化
- 2) 運営に課題のあるYMCA（総主事・スタッフレスYMCA）加盟の再確認と対応
- 3) 戦略会議による事業強化目標の達成
- 4) 事務共同化、地域協働化の仕組み検討

5 日本YMCA運動としてのガバナンス強化

- 1) 同盟機能と機構の見直しと工程作成
- 2) 第5回同盟協議会企画・運営改善
- 3) 次期中期計画の策定
- 4) オールジャパンYMCAの意思決定・執行機関の見直し
- 5) ユースを主体とした第19回日本YMCA大会の企画・実施
- 6) ユース参画の検討

Ⅱ 国際協力事業の協働強化

1 ユース・エンパワメントの推進強化

- 1) 世界と一致したユース・エンパワメントに関する取り組み
- 2) 世界YMCA同盟「チェンジ・エージェント」プログラムへの協力
- 3) ユース世代のスタッフ研修
- 4) 地球市民育成プロジェクトの実施

2 近隣のアジアのYMCAとの協働

- 1) アジア・太平洋YMCA同盟（APAY）との協働
- 2) 加盟YMCAによるパートナーシップやプログラムの把握と協働

3 海外被災地等支援

- 1) 被災地支援の実施
- 2) 難民支援の実施

4 アジア・太平洋地域の平和づくり

- 1) 国内における平和と多文化共生活動の推進
- 2) 日中韓YMCA平和フォーラムにおけるアクションプランの取り組み

5 国際協力事業への会員の参画を促進

- 1) 国際協力募金の強化
- 2) 国際プログラムへのユースの参加増

6 多文化の背景を持つ子どもたちの支援

- 1) 加盟YMCAによる取り組みの把握
- 2) 加盟YMCAの取り組み推進支援

Ⅲ 地域社会との協働ーパブリック・サポートの獲得

1 加盟YMCAが取り組んでいるファンドレイジング支援

- 1) 加盟YMCAのファンドレイジング活性化の支援
- 2) ユースファンドを通じた加盟YMCA支援
- 3) WEBでの寄附決済と遺贈寄附の告知

2 FCSC（国際賛助会）の活動強化

- 1) インターナショナル・チャリティーラン開催地拡大
- 2) スポンサー企業との関係強化

3 ワイズメンズクラブとの協働支援

- 1) 担当主事・連絡主事研修の強化
- 2) 新しいYMCA設立の調査・検討・準備

4 関係団体との協働支援

- 1) キリスト教関係団体のみならず、YMCAのミッションに賛同する団体との連携強化
- 2) 青少年育成団体や行政との連携強化

5 東日本大震災被災者支援事業とこれからの災害に備えて

- 1) 福島原発被災の子どもと家族への支援継続
- 2) 支援者のストレス・ケア・プログラムの実施
- 3) 「子どもを災害から守る」取り組みへの環境整備

Ⅳ 学生YMCA運動支援の強化

1 各個大学YMCAの運営支援と強化

- 1) 全国10の学生YMCA寮のガバナンス及び将来計画立案サポート
- 2) 全国25の大学内サークル形式の学生YMCAを大学教員、協力者と共に支援
- 3) 寄附集めの仕組みを個別学生YMCA、全国賛助会等に応じて強化
- 4) 新設・再興のきざしのある大学に積極的にアプローチをする。

2 共働スタッフを中心とする幅広い世代のリーダーシップ構築

3 地域の都市YMCA・ワイズメンズクラブ・教会とのネットワーク促進

4 学生YMCAで培われた思想から、平和への使命の発信

5 2018年学生YMCA130周年に向けた中期計画立案

Ⅴ 国際青少年センター YMCA 東山荘の新生に向けて

1 東山荘の経営強化・利用者の拡大による稼働率の向上

- 1) 東山荘の将来展望・計画の策定
- 2) 営業強化及び利便性・施設環境の整備、ホスピタリティーの充実
- 3) プログラムの多様化による利用者の拡大

2 100周年記念事業の推進

- 1) 第2次グランド計画である2016年9月完成予定の新本館建築・施設環境整備
- 2) 2016年100周年記念事業の実施
- 3) 資金の獲得ー海外キリスト教会からの支援検討、助成金団体から

3 「東山路観光協議会」との協働による地域の活性化

Ⅵ 全国YMCAの運営強化

1 加盟YMCAの諸規則・規程等の整備とガバナンス強化のための支援協力

2 中期計画推進のための体制強化

3 「全国YMCA総務ハンドブック」の改訂

4 主事退職金中央基金・職員年金基金の運用支援と制度検討